

2022年度
南山大学

社会人入学審査

問題集

NANZAN
UNIVERSITY

目 次

キリスト教学科.....	1
経済学科.....	3

2022年度南山大学社会人入学審査問題

「小論文」 時間 90分 配点 100点

(2021年10月16日実施)

＜人文学部 キリスト教学科＞

次の文章は、古代教会における伝統と神学についてのものである。

二つの問いに日本語で答えなさい。

問い1 以下の文章を400字程度で要約しなさい。

問い2 文章をよんで、教会共同体の伝統と神学との関わりをどのように考えるか、あなたの考えを述べなさい。400字から600字程度でまとめること。

The notion of tradition began very early, virtually as soon as Jesus began to preach, because, inevitably, his first disciples would refer back to things he had said as normative. Even that shaker of foundations, Paul the Apostle, resorted to citing traditions. When he gives his views on whether women should veil themselves, he plays his trump card: “But if anyone is disposed to be contentious—we have no such custom, nor do the churches of God” (1 Cor 11:16). The Corinthians should do what Paul says not because he is imposing his own views upon them but because he is merely telling them what the other churches have done.

In a society that changes rapidly, tradition can seem onerous, binding us to the now irrelevant customs of our parents. Tradition is fine at Thanksgiving or Christmas; otherwise we must look to the future. But in the ancient world, tradition represented both past and future, that is, people believed that they both stood in a tradition and added to it. Paul was glad to cite tradition in this instance, but he knew that what he taught about the Christians’ freedom from the Law differed from what people before him had believed. Paul believed that God had called him to be an apostle (1 Cor 1:1) and that he had acted in good faith, and so he was adding to the tradition.

Tradition was organic, a living link between past and present. When Irenaeus of Lyons combated the Gnostics, he pointed to the living link between himself, through the bishop Polycarp of Smyrna, back to the first-century presbyter, John. No group developed the notion of tradition more than the bishops of Rome, who traced their lineage to the disciple Peter; by the late fourth century, Pope Siricius wrote letters not just in own name but in the name of Peter who, Siricius claimed, spoke through him.²⁸ Monastic writers routinely added to the rules laid down by their deceased founders, but did

2022年度南山大学社会人入学審査問題

「小論文」 時間 90分 配点 100点

(2021年10月16日実施)

<人文学部 キリスト教学科>

so in the founders' names because they were still alive in their communities.

The most important element in tradition was the Church itself. By the second century, the Christians viewed their community as the continuation of Israel, thus taking themselves back to the days of Abraham. But the Church could go back even further. The second-century Roman writer Hermas portrayed the Church as an elderly woman who got progressively younger as his book went on. The Church had been present with God at the creation (the elderly woman) and would be with the Christians in the future (the young woman). In an era when people routinely defined themselves by their lineage, when they could trace their families back generations, when they pointed with pride to their long residency in their home cities or on their ancestral lands, the idea of a Church that lived from creation to the end had an appeal few moderns can imagine.

This attitude toward tradition appears repeatedly in Christian writings, but most of all in theology. Christian theologians labored to prove that what they taught was what the Church had always taught. Once they had established the canon of Scripture, they tried to align their teachings with that; once their individual Churches had histories, they tried to show their consistency with the teachings of their predecessors. For example, during the Donatist-Catholic schism in North Africa, both sides repeatedly stressed their fidelity to the teachings of the third-century martyr/bishop Cyprian of Carthage (d. 258), and accused the other side of betraying him. Inevitably this tack led to some serious disingenuousness, as theologians found the most remarkable things in the Bible or in their predecessors; but the point is that they wanted to align their teaching with them. The last title any ancient theologian wanted was "original."

出典 Joseph F. Kelly, 'Theology and Tradition in the Church' in *The World of the Early Christians : Message of the Fathers of the Church*, Vol.1, Liturgical press, College Ville (Minn.), 1997, p. 127-128.

問題おわり

2022年度南山大学社会人入学審査問題

「小論文」 時間 90分 配点 100点 (2021年10月16日実施)

<経済学部 経済学科>

最低賃金に関する次の2つの資料を読み、問1～問3に答えよ。

資料1

「ふつうの暮らし」という言葉からどんな暮らしをイメージしますか？人により「ふつう」のとらえ方はさまざまで、なかなかイメージを一致させることは難しいです。また、同様にイメージが人によって異なるのが、憲法25条にある「健康で文化的な最低限度の生活」という文言です。ここから生存ギリギリ、カツカツの生活をイメージする人もいるでしょう。ところが、憲法25条でいうところの「最低限度の生活」とはミニマムの生活であり、けっして最底辺の生活という意味ではありません。現在の資本主義経済体制を維持するために、あまねく国民に保障されなければならない生活水準のことを意味しており、その「最低限度の生活」の水準に「健康で」あり、「文化的」な要素が含まれなければならないのです。1日8時間週40時間フルタイムで働いたとしたら、誰もが「ふつうの暮らし」を送れるだけの賃金をもらえないとおかしくはないでしょうか。

調査によると、「ふつうの暮らし」に必要な費用は、税・社会保険料込みで約22万円～24万円(月額)で、この金額を月の労働時間で除すれば「ふつうの暮らし」を送るために必要な時給がいくらになるか明らかになります。月の労働時間が173.8時間というのはお盆もお正月も関係なく、1日8時間週40時間でずっと1年間働き続けるという働き方ですが、最低賃金審議会で使っている数字なのでとりあえずこの労働時間で換算してみると、時給1300円程度が必要になります。

1980年代後半に、豊かでゆとりのある生活を実現するために、政府によって労働時間を短縮する目標として掲げられた労働時間が年間1800時間でしたが、これを月当たりで換算すると150時間になります。つまり、ワーク・ライフ・バランスを実現できるような労働時間ということです。この労働時間で換算すると時給1500円程度が必要になります。

このように調査からは、少なくとも最低1300円ほど、ワーク・ライフ・バランスを志向するならば1500円以上あってしかるべきという結果が出ているのです。最低賃金=1500円という数字の大きな根拠となるでしょう。

最低賃金法9条には、最低賃金を決定する要素として「地域における労働者の生計費及び賃金並びに通常の事業の賃金支払い能力を考慮して定められなければならない」とされ、さらに「労働者の生計費を考慮するに当たっては、労働者が健康で文化的な最低限度の生活を営むことができるよう」とも明記されています。ところが、現在の最低賃金の金額ではとても「ふつうの暮らし」は望めません。労働者の生計費の要素を軽視せず、きちんと盛り込んでいくことが、現在の最低賃金制度に求められることです。

後藤道夫他(2018)『最低賃金1500円がつくる仕事と暮らし』大月書店、第1章第2節より抜粋の上、一部改変

2022年度南山大学社会人入学審査問題

「小論文」 時間 90分 配点 100点 (2021年10月16日実施)

<経済学部 経済学科>

資料2

企業が賃上げする際の重要な考慮要素である労働生産性は、中小企業では一貫して横ばいで大企業との格差が広がっており、労働分配率も大企業が40%台であるのに対して中小企業は70%台で推移して、付加価値額の多くが人件費に費やされている。

最低賃金の主たる役割・機能は労働者のセーフティネット保障であり、業績の良し悪しに関わらず全ての企業に対して罰則付きで一律に適用されることから、通常の賃上げとは異なる性格を有している。しかし、最低賃金は政府方針に基づき、中小企業の収益の持続的な改善や生産性の向上が伴わない状況下で、明確な根拠が示されないまま、名目GDP成長率や消費者物価、中小企業の賃上げ率(2020年:1.2%)を大きく上回る3%台の大幅な引上げが2016年から2019年まで4年連続で行われてきた。最低賃金の大幅な引上げは、中小企業数がここ7年間で62万社も減少している中で、経営基盤が脆弱で引上げの影響を受けやすい中小企業の経営を直撃し、雇用や事業の存続自体をも危うくすることから、地域経済の衰退に一層拍車をかけることが強く懸念される。

こうした中、当所が本年2月に実施した「最低賃金引上げの影響に関する調査」で、現在の最低賃金額について、「負担になっている」と回答した企業の割合は55.0%で、「経営への影響があった」と回答した企業の割合も43.9%に達している。

更に、厚生労働省の「最低賃金に関する基礎調査」によると、最低賃金額を改正した後に改正後の最低賃金額を下回ることとなる労働者の割合を示す「影響率」は、2009年度の2.7%から2019年度は16.3%と大幅に上昇しており、東京都(18.9%)を含む35都道府県が10%以上で、神奈川県(32.1%)、北海道(23.9%)、大阪府(22.5%)では20%を超えている。

政府はこれまで各種給付金や雇用調整助成金等の支援策を総動員し、中小企業の「事業の存続」と「雇用の維持」を強力で支えてきた。こうした中、あらゆる企業に強制力をもって適用される最低賃金を大幅に引上げることは、一連の政策効果を打ち消し、中小企業を更なる窮状に追い込むことになる。

中小企業は、企業数の99%、雇用の約7割を占めるなど、わが国の経済活力の源泉であり、地域経済を支える礎である。したがって、最低賃金は、政府方針に基づき「引上げありき」で審議するのではなく、あくまで中小企業の経営実態や地域経済の状況を十分に考慮することにより、明確な根拠のもとで納得感のある水準を決定すべきである。

日本商工会議所、東京商工会議所(2021)『最低賃金に関する要望～コロナ禍の厳しい経済情勢を踏まえ、「現行水準の維持」を～』より抜粋の上、一部改変。

問1. 資料1の主張を200字程度でまとめよ。

問2. 資料2の主張を200字程度でまとめよ。

問3. 資料1と資料2の内容をふまえた上で、最低賃金のあり方についてあなたの意見を600字程度で述べよ。なお参考までに、2021年10月時点での1時間当たりの最低賃金額(全国平均)は930円である。



南山大学

入試課 入試運営係

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町 18
Phone 052-832-3119 (平日 9:00-17:00)

Fax 052-832-3592

nyushi-ka@nanzan-u.ac.jp

<http://www.nanzan-u.ac.jp/>